

入江貝塚と高砂貝塚

世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産である洞爺湖町の入江貝塚と高砂貝塚についてご紹介します。

入江貝塚は、縄文時代前期（約5千年前）から後期（約4千年前）の貝塚を伴う集落跡です。遺跡は竪穴住居と貝塚、墓域で構成されています。貝塚からは貝類や魚骨のほか、動物の骨や角を加工した釣針や銚などの骨角器が出土しており、漁労が活発に行われていたことがわかっています。また、北海道にはいなかったイノシシの牙を用いた装身具も見つかりました。墓域では、筋萎縮症に罹患したとみられる成人人骨が見つかっており、周囲の手厚い介護を受け、生きながらえたことを伝えています。

入江貝塚 ▶



(洞爺湖町教育委員会社会教育課)



▲ 高砂貝塚 出土した土偶・土製品

高砂貝塚は、縄文時代後期（約4千年前）から晩期（約3千年前）の貝塚と墓域で構成されています。噴火湾沿岸では縄文時代晩期に作られた貝塚の発見例は少なく、当時の暮らしを知るうえで重要な遺跡です。墓域は土坑墓と配石遺構で構成されており、土坑墓からは胎児骨を伴う妊産婦の墓や、抜歯の痕跡がある人骨が確認されました。配石遺構からは、土偶やベンガラが入った土器などが出土し、当時の葬送の様子を伝えています。

E V E N T

アリオ札幌催事「北海道のうまいもの見〜つけた！」北の縄文魅力発信ブースが大好評！

イトーヨーカドーアリオ札幌店で開催された催事「北海道のうまいもの見〜つけた！」に、10月27日(水)から10月29日(金)まで、北海道庁縄文世界遺産推進室さん、札幌市東区「いるば28」さんと一緒に「北の縄文魅力発信ブース」で「北海道・北東北の縄文遺跡群」をPRしました！世界遺産登録で注目が高まる中、たくさんのお客様に楽しんでいただき、縄文ファンの輪がさらに広がった3日間でした。

～ ご来場 誠にありがとうございました ～



▲ 出土品展示のほか、

グッズ販売&パネル展と盛りだくさん！



編 集

後 記

〇会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。『北の縄文』2022年正月号の発行にあたり、全日本スキー連盟会長の勝木紀昭様からメッセージをお寄せいただきお礼申し上げます。

今年の干支『壬寅（みずのえとら）』は「厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎となる」と言われ、『虎』は「決断力と才知の象徴」の意味があるそうです。世界遺産（現在1,154件）への仲間入りを果たした北海道・北東北の縄文遺跡群が縄文世界遺産として輝かしい一年になりますよう、私ども編集局一同は「縄文パワー」全開で応援して参ります。

北の縄文

HOKKAIDO JOMONCLUB NEWSLETTER

新年あけましておめでとうございます

CONTENTS

- P1 巻頭あいさつ
- P2-3 世界遺産登録記念フォーラム
参加ルポ
- P4 縄文世界遺産コラム
イベントのご報告
編集後記

2022

巻頭あいさつ

縄文文化に学ぶ“まちづくり”の原点

冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致期成会

副会長 勝木 紀昭



札幌市出身
北海道エネルギーホールディングス社長
札幌商工会議所副会頭
全日本スキー連盟・北海道スキー連盟・
札幌スキー連盟会長
北の縄文道民会議理事

「北海道・北東北の縄文遺跡群」が2021年7月に世界遺産に登録されましたこと、北海道民の一人として非常に誇らしく、嬉しく思っております。登録に向けてご尽力された皆様の情熱と取り組みに心から敬意を表します。

私が縄文文化に心を動かされますのは、1万年以上に渡り同じ場所に暮らし平和で協調的な社会を築き上げた、世界でも稀な「長期的な定住文化」であることです。人々は気候の温暖化や寒冷化など環境の変化に適応しながら、知恵と工夫でムラを発展させ豊かな精神文化を作り上げました。ここに、私たちが目指す持続可能なまちづくりのヒントがあるのではないのでしょうか。

北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会の2030年招致を目指し取り組んでいますが、その実現は北海道、札幌の持続可能なまちづくりを考えることとつながっていきます。1972年に開催された札幌オリンピックが、札幌、北海道発展の大きな転機となったことは皆様もご承知の通りです。様々なスポーツ関連施設が整備されたことはもちろん、地下鉄が開通し地下街ができ、近郊都市小樽までの高速道路が整備されました。国際都市札幌の名を世界に知らしめ、アスリートたちが躍動する姿は市民、道民の心に大きな感動をもたらしました。2030年開催を目指す北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会もまた、新幹線の札幌延伸開業、駅から高速道路に直結する都心アクセスの整備、高速道路のミッシングリンクの解消など、北海道全体の交通インフラ整備が大きく前進する転機となるでしょう。丘珠空港の機能拡充により道内の航空網が整備され、さらには極東圏への公共路線も充実が図られ、観光、ビジネスの交流が促進されるでしょう。

そして何より大切なことは、2030年の冬季オリンピック・パラリンピックを契機に、「人に優しい思いやりのあるまちづくり」という考え方を、これからの北海道、札幌のあり方として強く位置付けるということです。1972年の開催時にはなかったパラリンピックが札幌で開催されることの意義は非常に大きいと考えています。2030年は国連が掲げるSDGs（持続可能な開発目標）達成目標の年であり、世界が新たな未来に踏み出す転機となる年でもあります。この2030年に北海道、札幌でオリンピック・パラリンピックが開催され、豊かな自然と都市が調和し、人々が互いを思いやり生き生きと暮らす街の姿を世界に示すことは、これからの北海道、札幌が向かう未来にとって非常に大きな意味を持つのではないのでしょうか。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は北海道観光の大きな柱となることでしょう。その遺跡群を巡る時、私たちはそこに縄文時代に暮らした人々の「心のレガシー（受け継ぐもの）」に思いを馳せます。1万年以上にわたり定住生活が続いた根底には、互いに支えあう「友愛の心」があったと言われていています。縄文遺跡群は、まちづくりの原点を私たちに伝えてくれます。まちづくりの原点といえば、開拓使島義勇が描いた札幌のビジョンを思い起こします。明治2年、島判官は現在北海道神宮のある山に登り「他日（たじつ）五州（ごしゅう）第一の都」という漢詩を読みました。「この豊かな地はいつか、世界第一の都となるだろう」と未来を描き、過酷な開拓に取り掛かったのです。創成川を東西の基軸、現在の大通公園を南北の基軸として基盤の目の街並みを設計し、北に官庁街、南に住宅・商業地を分ける火防線を作り、これが札幌市の原型となりました。

今こそ、縄文時代から脈々と受け継がれる日本人の優しさ、先人たちの開拓精神を胸に、持続可能な北海道・札幌の未来を描くときではないのでしょうか。その大きな転機となり得る2030北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会の実現をしっかりと見据え、招致活動に取り組んでまいります。優しさと思いやりに溢れた「他日五州第一の都」を目指して。

本年7月に「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録されたことを記念して、12月4日に札幌市内でフォーラムが開催されました。本フォーラムは、縄文遺跡群世界遺産登録推進本部、北海道、縄文遺跡群の世界遺産登録を目指す北海道議会議員連盟の皆さんと共に当会も主催として参加し、世界遺産登録に至ったこれまでの歩みを振り返るとともに、これからの縄文遺跡群の活用について、様々な視点から貴重なお話を聞くことができました。



▲ 会場の様子 満員御礼です！

第1部 世界遺産としての縄文遺跡群

基調講演では、「世界遺産と『北海道・北東北の縄文遺跡群』の価値」と題して、世界遺産登録に至るまでの道のりや、縄文遺跡群の魅力や価値について語られました。講師は、文化庁文化財調査官で、世界遺産担当として文化財の推薦や保全に携わってきた鈴木地平氏。「縄文遺跡群は農耕以前の北東アジアの人類の生き方を理解する上で重要な遺産であり、『狩猟採集社会は移動生活、農耕社会は定住生活』という世界の常識を覆した点で評価されている。」と解説いただいたほか、ユネスコの諮問機関であるイコモスが現地調査した際のこぼれ話も披露いただきました。



▲ 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の魅力とは…

続いては、道内における世界遺産の構成資産6遺跡と、これらと一体となって活用する関連資産の1遺跡について、所在する市町担当者の皆さんから事例報告がありました。

＜登壇者＞

函館市教育委員会文化財課	主査	福田 裕二 氏
伊達市教育委員会生涯学習課	主任	永谷 幸人 氏
洞爺湖町教育委員会社会教育課	参事	角田 隆志 氏
千歳市教育委員会教育部	主幹	豊田 宏良 氏
森町教育委員会社会教育課	係長	高橋 毅 氏

▲ 伊達市教育委員会生涯学習課・永谷主任の事例報告

第2部 縄文世界遺産のこれから

第2部では、世界遺産となった縄文遺跡群を今後どのように「活用」していくのか、世界から・地元から、どのような期待がこめられているのかについて、基調講演とパネルディスカッションを交えて理解を深めていきました。



▲ 国際的な見地から、縄文遺跡群の可能性について講演いただきました

基調講演には、筑波大学名誉教授で、世界遺産の保全等に関する助言や国際協力事業に携わってきた 稲葉信子氏が登壇。縄文遺跡群が「世界遺産になる・国際社会に認められる」ということ、地元で考える「世界遺産の目指す姿」について、聴衆に問いかけながら講演が進みました。日本だからこそ、この地域だからこそできる世界遺産のあり方について、他国の事例を交えながら、多様な視点から考えるきっかけとなる貴重なお話でした。

プログラムの最後となるパネルディスカッションでは、「縄文世界遺産、その活用と方向性」と題して、縄文の魅力を発信する新たな地域の活動や、遺跡を訪れたいと思わせるマーケティング、実際に遺跡を訪れた観光専門家の分析など、幅広くパネリストから解説いただきました。「世界遺産を保存すること・経済活動が活発になること(手段)を通じて、地域が幸せになる未来を思い描く」という、縄文遺跡群活用の根幹を学ぶことが出来ました。

＜パネリスト＞

北海道運輸局観光地域振興課	係長	千葉 真裕 氏
北海道旅客鉄道株式会社	専任課長	田中 洋一 氏
札幌国際大学観光学部	教授	池ノ上 真一 氏



▲ 縄文遺跡群の活用の方向性を一緒に考えていきます

年末のお忙しい中ご参加・ご視聴いただきまして、誠にありがとうございました。今後とも、世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」への応援のほど、よろしく願いいたします。

本フォーラムのライブ配信映像をご覧ください
<https://youtu.be/v4O8xmHsnk8>



「北海道 世界遺産登録記念フォーラム」で検索！



▲ 世界遺産登録認定証(複製)